

科目名	社会言語学概論
科目名(英訳)	Introduction to Sociolinguistics
科目ナンバー	HM232A01
担当者 (非)は非常勤講師	柳谷 啓子
単位数	2
開講学年	2年
開講semester	春期毎週
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 柳谷 啓子:木5-6
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	学科専門教育科目の中のメディア情報社会基盤科目のうちの理論基礎科目として位置づけられる。理論基礎科目は、メディア情報社会に関する基礎的理論を修得するための科目群である。本講義は、コミュニケーションが行われる社会的・文化的コンテキスト(背景・文脈)と言語の関係について学ぶ科目である。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ②:○ ④:○
身につく基礎力 / 身につく汎用力	／ 豊かな教養 専門的知識・技能 国際的な視野

授業の主旨 (概要)	ことばと社会の関係を扱う「社会言語学」の入門的授業です。実際の社会の中でのことばの使われ方を観察してみると、同じ一つのことを言うにも、話し手の年齢・性別・出身地・職業などによって様々な言い方があることに気がきます。社会全体から見ると、それだけたくさんのことば(話し方)のレパートリーがあるわけです。また同じ一人の人が話すとして、誰と、どういう状況のもとで、何について、どういう目的で話すのかなど、様々な外的要因を総合的に判断して、いろいろな話し方の中からその時々になさわしい話し方を選んでいることがわかります。つまり個人個人にもそれぞれ話し方のレパートリーがあるわけです。今、仮に(年齢・性別など)話し手の属性や(話し相手・状況など)場面の属性を社会的要因とよぶならば、この「様々な社会的要因の組合せ」と「様々な話し方」の間の対応関係を研究することが、社会言語学の関心事の一つです。 さらに、私たちはことばをどう使うかによって、意識的にせよ無意識的にせよ、社会のあり方を保持したり変更したりしているし、相手との人間関係を交渉したりしています。つまり、心理的要因によっても話し方は変わり、それは話すうちにも刻々と変化していく種のものであります。これも社会言語学の重要な関心事です。 この授業では、主に前者の関心事、すなわち、どのような社会的要因が組み合わさるとどのような話し方が選ばれるかという、いわば「固定的(静的)な対応関係」の研究手法やその成果を紹介することを目的とします。扱う主な社会的要因は、ジェンダー、社会階層、世代、地域などで、事例は日本社会と英語圏社会のものを取り上げます。関連するSDGsとしては、1, 4, 5, 10など。		
具体的 達成目標	人を構成しているさまざまな属性(性別・年齢・出身地域・職業・民族など)とその人が話すことばの関係について、以下のことを説明できるようになります: ・どのようなことが研究テーマになりうるのか ・どのような研究方法があるのか ・この分野の研究にはどのような専門用語が必要なのか ・ことばを客観的に研究対象として扱うことにはどのような意味があるのか ・SDGs #1(貧困をなくそう)、#4(質の高い教育をみんなに)、#5(ジェンダー平等を実現しよう)、#10(人や国の不平等をなくそう)などの達成と社会言語学的研究がどのような関係にあるのか 基本的に以下の内容を扱う予定ですが、受講者の人数、予備知識、興味などにより順番や内容、回数の変更もありえます。		
授業計画	1	【内容】	【1回目】＜オリエンテーション＞授業内容や進め方の紹介、社会言語学分野・基本概念の紹介
		【授業外学習】	シラバスをよく読んで、授業内容を理解しておくこと。また、授業後はノートをつくって、ファイリングをすること。 課題:「男女の別れ話の架空会話」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	2	【内容】	【2回目】＜言語と性差＞さまざまなレベルの言語性差、セックスとジェンダーの定義、男言葉と女言葉
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみる。 課題:「同性／異性に対する話し方の自己分析」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	3	【内容】	【3回目】＜言語と性差＞男女の会話スタイル、CMC(Computer mediated communication)における性差
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみる。 課題:「日本語におけるCMCの性差分析」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	4	【内容】	【4回目】＜言語と性差＞丁寧度の違い、状況(場面・人間関係など)による違い、文化による違い、ライフスタイルと言語性差、グループ・アイデンティティと言語性差、まとめ

18 社会言語学概論

		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。 課題:「日本語における丁寧度の男女差の分析」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	5	【内容】	【5回目】＜言語と社会階層＞階級方言1、映画『My Fair Lady』の分析
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。 課題:「出自による言語差の自己分析」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	6	【内容】	【6回目】＜言語と社会階層＞階級方言2、ドキュメンタリー番組『7年ごとの成長記録:イギリス編』の分析、階級(階層)の測り方、言語使用にみられる階級差
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。
	7	【内容】	【7回目】＜言語と社会階層＞社会階級とその他の社会的要因の関係(階級と場面)
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。
	8	【内容】	【8回目】＜言語と社会階層＞社会階級とその他の社会的要因の関係(階級と性差、階級と民族／人種)、日本における状況の研究
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。
	9	【内容】	【9回目】＜言語と世代差＞予備知識(世代による語彙の違い、若者ことばランキング、年齢と言語のありうる2つの関係、通時的言語学と共時的言語学、「国語に関する世論調査」)
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。 課題:「ことば調査Part 1(自己分析)」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	10	【内容】	【10回目】＜言語と世代差＞シルバー(高齢者)言葉、ミドル・エイジ(中年)言葉、非標準形／バナキュラーと年齢層、エイジ・グレイディングと言語変化
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。 課題:「ことば調査Part 2(親世代・祖父母世代の調査)」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	11	【内容】	【11回目】＜言語と世代差＞Cumoc調査結果、若者言葉の特徴、若者言葉の機能(使用目的／どうして使うのか)、言語変化に対する社会言語学の姿勢
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。 課題:「ことば調査Part 3(造語法別例示)」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	12	【内容】	【12回目】＜言語と地域＞地域方言、日本における方言の区画(語彙、イメージ)、方言萌え
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。 課題:「方言イメージ調査(CM分析)」を実施してCoursePower上に提出。 期限:次回授業日の前日24時
	13	【内容】	【13回目】＜言語と地域＞英語の国際化、英語の影響力、「正しい」英語?、英語の変種1(イギリス英語、ウェールズ地方の英語、スコットランド地方の英語、アイルランド地方の英語、など)
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。授業内で配布される理解度確 クイズの練習問題を実施して次回持参すること。わからないことを質問できるようにしておくこと。
	14	【内容】	【14回目】＜言語と地域＞英語の変種2(アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、その他の地域の英語)、質問受付
		【授業外学習】	ノートを点検して、理解しやすいように整理し、理解度確 クイズに備えるための練習問題集を復習して、クイズに備えること。
	15	【内容】	【15回目】＜総まとめ＞用語の定義、重要概念の復習、理解度確 クイズ
		【授業外学習】	理解度確 クイズの問題をノートを読みながら解答してみて、どれだけ正解できたかを検討する。また、一学期間のノートを整理して、ファイリングすること。
授業方法	- 基本的に講義形式で行います。特定のテキストは使用しません。必要に応じてプリントを配付します。出欠確 を兼ねて、毎回授業の最後の10分ほどを使ってその日に学んだこと、考えたこと、疑問点などを書いてもらいます。 - 提出された課題は、基本的には後日評価と簡単なコメントを付けて返却しますが、場合によっては総評や代表例への講評で代えることもあります。		
成績の評価方法	ア 授業参加度.....40% イ 授業理解度.....60% 授業参加度は、出席、および各回のテーマ・紹介する研究の主旨等を把握できた程度に応じて評価します。 授業理解度は、最終的に「社会とことば」の関係についてのテーマや用語等がどれだけ身になったかの程度に応じて評価します。		
成績の評価基準	ア 授業参加度 授業参加度は、授業内で数回書いてもらう「学んだこと・考えたこと・疑問点」によって、3-0で評価します。		

	3……良い(その授業の主旨をよく把握し、問題点やそれに対する研究者らの解決を包括的に理解した) 2……普通(その授業の主旨をほぼ把握し、具体例などを散発的に理解した) 1……努力不足(ほとんど何も学んだ形跡がない) 0……欠席 イ 授業理解度 各種キーワード(用語)、重要理論の考え方と応用、グラフ・チャートなどからの情報の読み取りなどがどれだけ身についたかをクイズ形式でみます。(事前にスタディー・ガイドとしてサンプルクイズを渡します。)100点満点。 * 総合成績評価 以上2項目が全て満点の場合を100%として、以下にしたがって成績をつけます: S…… 90～100% A…… 80～89% B…… 70～79% C…… 60～69% E…… 59%以下					
教科書						
参考文献	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『社会言語学入門』	東照二	研究社	2,530	978-4327401573
	2.	『社会言語学の展望』	真田信治 編	くろしお出版	2,420	978-4874243459
	3.	『社会言語学への招待』	田中春美・田中幸子 編著	ミネルヴァ書房	2,750	978-4623026296
	4.	『社会言語学のしくみ シリーズ・日本語のしくみを探る』	町田健・中井 精一	研究社	2,200	978-4327383077
	5.	『社会言語学概論』	中尾俊夫・日比谷潤子・服部憲子	くろしお出版	3,300	978-4865041354